



日本各地に伝わる歴史でも、地域の社会や生活に溶け込み、その地の魅力や特色を伝える文化的、歴史的資産が「日本遺産」である。文化庁が認定するもので、人々の営みと遺産のかかわりなどのストーリー性が重視され、現在、全国で54件が登録されている。そのうち神奈川県には三つ。それぞれ趣が違い、全国的に見てもその特徴が際立っている。日本のみならず世界にも誇れる、神奈川の貴重な観光資源である。

第1章

神奈川県が 有する三つの 日本遺産

日本遺産① 「いざ、鎌倉」 歴史と文化が描くモザイク画のまちへ

写真協力 鎌倉市



時代とともに 独自の歴史と文化 を紡いできた街

鎌倉が観光地として注目をあびた江戸時代には歴史や名所旧跡を紹介するガイドブックが多数刊行された(国立国会図書館蔵)

頼朝以来800余年の歴史を誇る古都鎌倉

奈良・平安時代、鎌倉には鎌倉郡の役所である郡衙ぐんがが置かれていた。

治承4(1180)年に源頼朝が鎌倉に拠点を定めると都市としての整備が進められ、以降、約150年にわたり鎌倉は日本で初めての武家による政権の中心地となった。

頼朝が創建した鶴岡八幡宮や参道である若宮大路を中心に街がつくら

れ、その頃に南宋からもたらされた禪宗の寺院が次々に建立された。



元弘3(1333)年、執権の北条一族が滅亡し、鎌倉幕府は幕を閉じる。その後、足利尊氏によって鎌倉府が置かれるが、享徳3(1454)年に勃発した享徳の乱で鎌倉は武家の府としての役割を完全に終えた。



「名勝八景 鎌倉晚鶴ヶ岡より房州山の園」天保初期、歌川豊国(二代)の作。鶴岡八幡宮の真山から海を望み、対岸には房総の山並みも(神奈川県立歴史博物館蔵)

戦国時代には小田原北条氏が、江戸時代には徳川家康が鶴岡八幡宮の造営や修築を行うが、かつての街の繁栄にはほど遠く、鎌倉が再び脚光を浴びるのは江戸時代後半となった。旧跡に惹かれた庶民が大山や江の島などの寺社参詣の行き帰りに物見遊山で訪れるようになったのだ。名所記も発行され、より人々の興味を誘った。

地や保養地として注目される。その後、街の雰囲気にも惹かれた明治・大正・昭和の文豪たちも多く移り住み、鎌倉は文化の街へと変貌した。いまも毎年8月に開かれる「ぼんぼり祭」では、ゆかりの文化人によって描かれたぼんぼりが鎌倉の夏の夜を照らしている。

明治時代、明治22(1889)年に横須賀線が開通しアクセスがよくなると、ドイツ人の医師ベルツが海水浴の健康増進効果を唱えたこともあって鎌倉は、政財界の人々の別荘

12世紀末に、頼朝が整え始めた武士の都を基本に、近世から近代・現代までの歴史と文化がちりばめられた鎌倉はまさにモザイク画の街である。全国各地に数ある日本遺産の中でも、特徴ある貴重な古都といえるだろう。



鶴岡八幡宮本宮前の大石段脇のイチョウには、3代将軍・源実朝暗殺事件の際に別当の公卿が身を隠したという伝承が。平成22(2010)年に倒壊したが、ひこばえから再生した。



高徳院本尊の国宝銅造阿彌陀如来坐像。像高約11.3m。ほぼ造立時の像容を保つ。「吾妻鏡」では建長4(1252)年に造立開始と記す。当初は金箔で覆われていた。



旧前田侯爵家別邸は鎌倉市に寄贈され、鎌倉ゆかりの文筆家を紹介する文学館になっている。美しいバラ園や広大な庭からの眺望も楽しめる。(写真提供: 鎌倉文学館)



「ぼんぼり祭」は立秋前日から源実朝誕生日の8月9日(実朝祭)まで開催。鎌倉在住の作家などが描いた約400点のぼんぼりに火が灯され、境内を幻想的に照らす。



「鎌倉絵図」は現代のイラストマップの原型ともいえる、名所旧跡を紹介した絵地図。昔の鎌倉の様子がよくわかる（神奈川県立歴史博物館蔵）

三方を山が囲み 一方が海に臨む

鎌倉市街を上空から見ると、三方が山に囲まれ、一方が海に臨む様子がわかる。市街地の中心部を、海から山に向かって真っ直ぐ延びる道が若宮大路で、その突き当たりにあるのが鶴岡八幡宮だ。

若宮大路の西側をほぼ並行して走る道が今小路である。頼朝の父・

若宮大路の真ん中を通る二段高くなった道が「段葛」である。寿永元（1182）年に頼朝が妻・政子の安産祈願のためつくらせたと伝わる。当時の鎌倉は現在の鎌倉女学院前交差点辺りまで海水が入り込み、砂浜が広がっていた。頼朝は自ら指揮し土や石を運ばせ、八幡宮から由比ガ浜まで真っ直ぐ貫く道路を完成させた。当時の長さは約300丈（約900メートル）。明治以降、鉄道が敷設され今日の姿になった。

鎌倉から放射状に広がる道がいわゆる鎌倉街道だ。武蔵、上野、信濃方面に向かう「上つ道」と、戸塚や

義朝の館跡（現在の寿福寺）もこの道に面し、古代鎌倉のメインストリートだったと考えられる。

治承4（1180）年に鎌倉入りした頼朝が、最初に行ったのが由比若宮（元八幡）の遷宮であった。

由比若宮は頼朝の先祖である源頼義が石清水八幡宮を勧請して建てた社で、頼朝は小林郷と呼ばれていた鎌倉の北の山に遷し、源氏の守護神とした。これが鶴岡八幡宮である。

二俣川を経て府中で上つ道に合流する「中つ道」、房総方面に向かって延びる「下つ道」の三つがあったとされる。それらの道は山を削ってつくられた「切通」を通じ外部とつながっていた。

また、幕府は遠浅で大型船が入れない鎌倉の海を貿易港として整備するため、石を積んだ港の和賀江嶋をつくった。NHKの人気番組「プラタモリ」でも紹介されていたが、鎌倉の岩はやわらかくて加工しやすいものの水の浸食を受けやすく、丹沢や伊豆・箱根の石を使ってつくられたとのことである。



鎌倉の西にある仮粧坂切通。その名の由来は、化粧をした女たちの遊女宿があったからとも、平家の武將の首実検をしたからとも。藤沢、大船方面からいまの藤氏山公園を経由して、鎌倉市街に至る戦路上の重要地点。新田義貞の鎌倉攻めでも激戦の舞台となったところである。



京の七口になぞらえ「鎌倉七口」と呼ばれた切通。仮粧坂以外に、鎌倉と六浦を結ぶ朝夷奈切通（上）や三浦に通じた名越切通、藤沢と結ぶ大仏切通（左）などが往時の雰囲気伝える。



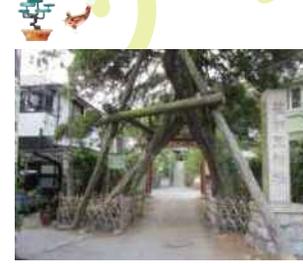
三方が山で一方が海という鎌倉はまさに天然の要害。古東海道に通じていたという交通の要衝で、街中には水路として利用された滑川も流れた。鎌倉は頼朝の祖先が治めたところだが周辺には三浦氏など源氏とつながりの深い武士団が多く、朝廷のある都から離れ東国を地盤に全国を統治できた（CG 成瀬京司）※現在、巨福呂坂は通行できません。

S P O T



立ち寄り所 小町通り

鳥居型のゲートから約360mの区間に土産物店や飲食店が軒を連ねる鎌倉一の繁華街。元はローカルな商店街だったが次第に観光客相手の店が増え、いまや鎌倉名所の一つ。おしゃれなカフェも多く、鎌倉散策の行き帰りに一服できる。http://kamakura-komachi.com/



左 荏柄天神社は学問の神・菅原道真を祀る。天平時代に記録が残る古い神社だが、幕府を開いた頼朝が鬼門の守護神として造営した。

天然の要害の地につくられた 武士の都



段葛は頼朝が妻・政子の安産祈願のためにつくらせた八幡宮の参道。かつら石を置いて整備したことから「作道」、「置石」などと呼ばれていた。

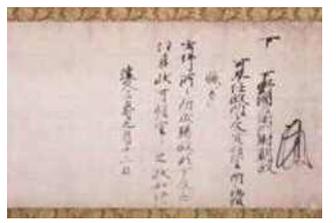


鎌倉でまず参詣するのが鶴岡八幡宮だろう。初詣や春の鎌倉まつりに秋の流籠馬神事と、一年を通じて参詣客が絶えない鎌倉のシンボル（写真提供：鶴岡八幡宮）

武家による 初の政権と 鎌倉武士の興亡



源氏山公園に建つ頼朝像。鎌倉市街地の西北方向にある公園で周辺は桜の名所。近くに鎮座する葛原岡神社は、倒幕の志半ばで倒れた公卿・日野俊基を祀る。



源頼朝袖判下文。頼朝が下野国御家人の小山朝政に与えたもの。頼朝は自分と御家人との関係を幕府と御家人の関係として組織機構を整えた(神奈川県歴史博物館蔵)

頼朝肖像画(国立国会図書館蔵)。平治の乱後、伊豆に流され、以仁王の命を受け平氏追討の拳兵。鎌倉を拠点に東国武士をまとめ平氏を滅ぼし幕府を開く。



頼朝の墓である法華堂は、元は頼朝の持仏堂があった場所。宝治元(1247)年に起きた宝治合戦では北条氏に敗れた三浦半島の御家人・三浦一族がここで自害を遂げた。

江戸時代の武士と 鎌倉武士の違い

鎌倉を拠点に、奥州藤原氏を滅ぼした源頼朝が武家政権の要としたのが、御家人との間に結ばれた「御恩と奉公」の絆であった。

打倒平氏の旗を挙げた頼朝に呼応した三浦半島の三浦一族は、当初は平家方だった武蔵国出身の畠山重忠との合戦に及び、本拠の衣笠城を攻め落とされ、このとき長老の三浦義明は「源氏の再興に居あわせられて嬉しい」と、自ら城に踏み留まり討ち死にしたという。

ただそれは、近世以降に賛美された「武士道」の主君への絶対服従や自己犠牲といったものではなく、自らの死を一族の手柄として頼朝に示し、対価、すなわち「御恩」を要求するものであった。

その対価とは土地である。三浦氏や梶原近辺に住んでいた梶原氏など、武士は先祖代々受け継いだ土地の名を冠し、恩賞として新しく手に入れた土地に根を下ろすと今度はその地の名を名乗った。武士にとり土地は収入源であると同時に自



奥州藤原氏を滅ぼした源頼朝が、合戦の戦死者の魂を供養するため建立した永福寺の跡。歴代将軍も参詣した美しい寺院は史跡として整備され、園地や建物の墓塚が復元された。



源氏山公園に向かう坂の途中にある銭洗弁財天宇賀福神社は、宇賀福神の夢のお告げで源頼朝が建てたと伝わる。湧水でお金を洗うと信になるという伝承に、参詣客が絶えない。



貞永元(1232)年に鎌倉幕府3代執権・北条泰時が先例や慣習を元に制定したのが『御成敗式目』。別名『貞永式目』とも呼ばれる初の武家法典(国立国会図書館蔵)



武士の精神をいまに伝える流鏑馬。秋の鶴岡八幡宮例大祭や春の「鎌倉まつり」などで披露され、鎌倉時代の狩装束に身を包んだ射手が馬上で的を射ながら駆け抜ける。



『蒙古襲来絵詞』に描かれた「文永の役鳥飼潟の戦い」の一部(国立国会図書館蔵)。文永・弘安の役で異民族の元と戦い、勝利したものの鎌倉幕府は疲弊し、やがて滅びる。

SPECIALTY

名物



豊島屋本店

鎌倉名物の塘サブレをつくる豊島屋は明治27(1894)年創業。当時鎌倉にあった海浜院に滞在していた外国人からもらったビスケットを参考に、横浜の異人館からバターを仕入れ、試作を重ね完成した【住所】鎌倉市小町2-11-19【電話】0467-25-0810【営業】9:00~19:00、水曜不定期休 <https://www.hato.co.jp/>

第1章 神奈川県が有する三つの日本遺産

日本遺産①「いざ、鎌倉」

らのアイデンティティを示すもので、だからこそ弓馬の腕を磨き「一所懸命」、一つの所に命を懸けたのだ。武士たちは恩賞として与えられた土地の所有権を認めた「安堵状」を代々大切に受け継ぎ、土地をめぐるトラブルが起きたときには自身の正当性を主張するために使った。そのような訴訟に対応するのも幕府の重要な役割であった。

頼朝の死後、源氏の将軍が3代で絶えると北条氏は、梶原氏、畠山氏、和田氏、三浦氏といったライバルを次々に排除し幕府の実権を握る。同時にいわゆる『御成敗式目』を定め武家政権の安定を図り、結果、全国的主要部のほとんどを北条一族が支配するまでになる。

鎌倉時代後期、大陸の覇者となった元(モンゴル)が二度にわたって日本に襲来する。武士たちは果敢に戦い元の軍勢を退けるが、幕府には恩賞として与えらるべき土地がなかった。やがて武士の間に不満が蓄積し、元弘3(1333)年に後醍醐天皇の呼びかけに応じた足利尊氏、新田義貞らによって鎌倉幕府は滅亡する。

武士の都に建立された 数々の禅宗寺院

鎌倉七口の一つである巨福呂呂坂に臨んで建て建長寺は、鎌倉幕府5代執権の北条時頼によって建長5（1253）年に創建された鎌倉五山第1位の禅宗寺院である。一般に日本に禅をもたらしたとされる明庵栄西は、比叡山延暦寺で修行をした天台宗の僧侶である。

宋に渡り、虚庵懐敏に師事した栄西は日本で禅の教えを広めるべく活動を開始するが、比叡山や南都といった既存の宗教勢力はそれを快く思わず妨害を受ける。そこで栄西が新たな布教先として選んだのが、新興勢力である武士の都・鎌倉だったのである。

鎌倉武士は禅を受け入れた。經典に頼ることなく、師との対話を通じて己の内面と向き合い、自分自身の向上と衆生の救済を目指すその教義は、為政者として自覚を持ち始めた武士の趣向に適ったのである。

2代將軍の源頼家や3代將軍の源実朝らは栄西に帰依し、その母親である北条政子は、正治2



北条時頼によって建立された鎌倉五山第1位の巨福山建長寺。臨済宗建長寺派の大本山で、開山は蘭溪道隆。三門、仏殿、法堂、唐門は国の重要文化財になっている。境内も国の史跡に指定。国宝の梵鐘は時頼が寄進したものの。

武士の趣向に 合った禅宗と 鎌倉五山

（1200）年に頼朝の父・義朝の館跡を寄進して寿福寺を建立する。しかし、政子たちが栄西に期待していたのは、禅の師というよりも、加持祈祷を行う天台僧としての役割の方が大きかった。

鎌倉に本格的に禅の文化が開くのは、北条時頼の時代である。禅に深く傾倒した時頼は宋からき

た臨済宗僧侶の蘭溪道隆を鎌倉に招き、建長寺の開山を迎える。これまでの禅宗寺院が他の宗派との兼学だったのに対し、鎌倉で初めて純粹な禅の道場となった建長寺の建立は画期的だったといえる。

南宋にならって取り入れられた五山制度で、鎌倉五山と定められた寺のうち、第1位の建長寺をはじめ、円覚寺、浄智寺の三つがいまの北鎌

倉に建っている。鎌倉時代、この地域は禅の一大センターだったのである。

鎌倉を代表する伝統的工芸品の一つ、鎌倉彫も、禅宗文化によってもたらされたものとされる。初めは仏具や僧侶の使用の中心だったが、時代が下るにつれて茶器や生活雑貨なども制作されるようになっていった。



直径11.7cm、高さ3.5cmの扁輪文香合。室町～桃山時代の作。宋伝来の技法をもとに、日本の仏師たちが独自の工夫でつくり上げたのが鎌倉彫である（神奈川県立歴史博物館蔵）



仏具や仏像を入れて修行者が背負う笈。木製で箱形、漆塗りに彩色で装飾をほどこした一群を鎌倉彫笈という。写真の楕文笈は高さ78.5cm、室町時代の作。神奈川県指定重要文化財（神奈川県立歴史博物館蔵）



鎌倉に伝わる国宝を保管・展示している鎌倉国宝館。大正12（1923）年の関東大震災によって大きな被害を被ったのをきっかけに文化財保護の目的で設立された。

建長寺が所蔵する北条時頼坐像。像高69.5cm。国重要文化財（普段は鎌倉国宝館に寄託）。鎌倉幕府第5代執権の時頼は禅に深く帰依し、純粹な禅道場として建長寺を開いた。



博古堂

鶴岡八幡宮の三の鳥居脇にある鎌倉彫の老舗、博古堂。明治33（1900）年に創業。明治時代、仏像づくりが廃れる中、美術工房として復活させた鎌倉彫中興の祖が開いた店。仏師の技を継承し新たな彫刻表現にも挑戦する【住所】鎌倉市雪ノ下2-1-28【電話】0467-22-2429【営業】9:30～18:00（11～2月は17:30まで）、無休 <http://www.kamakurabori.org/>

立ち寄り所



第1章 神奈川県が有する三つの日本遺産
Canaan
日本遺産「いざ、鎌倉」



像高175cmの平安時代につくられた薬師如来立像。鎌倉時代になると慶派を中心に写実性を追求した仏像がつけられる。神奈川県指定文化財（鎌倉国宝館蔵）



鎌倉五山第2位の円覚寺は、無学祖元を開山とする臨済宗円覚寺派の大本山。広大な敷地内に真梅院、仏日庵などの塔頭を持つ。舍利殿、洪鐘が国宝指定。



鎌倉五山第5位の浄妙寺。足利氏の祖・足利義兼が文治4（1188）年に開いた極楽寺（真言宗）が前身。後に蘭溪道隆の弟子・月峯了然が臨済宗に改めた。



鎌倉時代中期に創建された大仏の遺立礎には謎が多い。室町時代に地震と津波で倒壊したとされてきた大仏殿についても、近年の研究ではその壊すでに失われていたと考えられている。(C)G成瀬京司



明治期の鶴岡八幡宮を撮った古写真。外国人向けの土産としても人気だった(神奈川県立歴史博物館蔵)

観光地、 保養地として 復活する



鎌倉市内には大正から昭和にかけて建てられた近代建築が点在する。湯浅物産館もその一つで、現在はカフェや土産物など、複数の店舗が営業する。



鎌倉市川喜多映画記念館は川喜多長政・かちこ夫妻の旧宅だったところ。映画文化への夫妻の貢献を伝える(写真提供:鎌倉市川喜多映画記念館)



明治33(1900)年創業の酒店・三河屋本店。建物は昭和2年に建てられたもので、品出しに使うトロッコを運ぶためのレールはいまも現役。



福ヶ谷の閑静な住宅街に建つ古我邸。現在はレストランとして営業し、ウエディングパーティなどでも人気を集めている(写真提供:古我邸)

成氏は享徳3(1454)年、関東管領の上杉憲忠を謀殺する。これをきっかけに享徳の乱が起り、関東は西国よりも一足早く戦国時代に入ります。ここに、武家政権の中心としての鎌倉の役目は完全に終わりを告げた。

成氏が鎌倉を去り古河に移ってからも、歴代の古河公方や、南関東に勢力を伸ばした扇谷上杉氏や小田原北条氏、徳川氏などが武家政権発祥の地として鎌倉を崇敬し、鶴岡八幡宮や鎌倉五山をはじめとする社寺に寄進を行った。しかし、往時の中世都市の繁栄には遠く及ばず、鎌倉は長く衰微の時代を送ることとなる。

江戸・東京からも近い 自然と文化が豊かな街

鎌倉が世間の脚光を浴びるのは江戸時代の中頃である。当時、幕府は人の往来に制限を設けていたが、寺社への参詣は比較的寛容だった。そのため、人々は弁財天が祀られた江の島詣での行き帰りに足を延ばして古都鎌倉も訪れたのである。

近代に入ると、山を背負い海にも近い鎌倉は、気候の温暖さと自然の豊かさから人気保養地となる。ドイツ人医師ベルツの推薦もあり、明治22(1889)年に横須賀線が開通すると政財界の人々が鎌倉各地に別

SPOT

立ち寄り所



稲村ヶ崎公園

元弘3(1333)年、新田義貞が鎌倉を攻めた際、海に太刀を投げ入れたところ潮が引き一気に攻め入ったという伝説が残る稲村ヶ崎。いまは公園として整備され、入口には「稲村ヶ崎新田義貞徒渉伝説地」の石碑も。富士山や江の島を眺める絶景スポットとして知られ「かながわの景勝50選」にも指定されている。



後醍醐天皇の呼びかけに応じ、鎌倉を目指した新田義貞らは巨福呂坂、極楽寺坂、稲村ヶ崎で激戦を繰り広げた。「太平記」では義貞が太刀を稲村ヶ崎の海に投げ入れ道を開いたと伝える(C)G成瀬京司



鎌倉時代、北条氏の縁権館があった場所といわれる宝蔵寺。秋になると満開の萩が観光客を迎える。北条一族はこの裏山にある東勝寺で滅亡した。



鎌倉北部の山深い場所に建つ覚園寺。自然環境が一体となり、中世の雰囲気を残す。本尊の木造業師三尊坐像(国重文)を十二神符立像が守る。



夢窓疎石が開いた瑞泉寺。夢窓の手になる本堂裏の庭は国の名勝にも指定。花の寺として有名で、四季折々の美しさを求めて観光客が訪れる。



鎌倉でもっとも古く、坂東三十三観音霊場の第一番札所である杉本寺。幕府が開かれるよりも500年ほど前の奈良時代に行基が開いたと伝わる。

幕府が滅亡し 次第に寂れ 寒村となる鎌倉

西国よりも一足早く 戦国時代となった関東

元弘3(1333)年に鎌倉幕府が滅びると、足利尊氏は関東支配の拠点として鎌倉府を設置した。鎌倉府はおおよそ100年続いたが、次第に室町幕府に対抗する姿勢を見せるようになっていった。

永享10(1438)年、4代目鎌倉公方(鎌倉府の長官)の足利持氏は関東管領・上杉憲実を討つために軍勢を動かした。しかし室町幕府6代將軍足利義教は憲実を支援し、敗れた持氏は永安寺で切腹して果てる。大町にある別願寺の大きな石塔は持氏の供養塔と伝えられる。持氏の跡は息子の成氏が継いだ。

その他おすすめスポット&情報

東勝寺跡

13世紀前半に鎌倉幕府3代執権の北条泰時が創建した寺院跡。元弘3(1333)年に北条一族がここに立て籠もり、裏手裏面に「腹切やぐら」と呼ばれる洞窟であり、目刃したと伝わる。鎌倉幕府滅亡の地であり、一族を供養する墓石も。

鎌倉歴史文化交流館

鎌倉の歴史文化を学び体験できる新しい博物館。古都の景観に調和する建物の設計者は著名建築家のノーマン・フォスター氏で、快適な空間だ【住所】鎌倉市扇ガ谷1-5-1【電話】0467-73-8501【開館】10:00~16:00、日・祝日休館【入館料】一般300円

きものレンタル都

着付けやヘアセット、草履や小物まで貸してくれる着物レンタル店【住所】鎌倉市扇ガ谷1-8-1-3F【営業】10:00~21:00、月曜休み【料金】大人4212円 申込み、詳細は神奈川チカタビで。http://tabihutsu.jp/chikatabi/program/95870.html



当ガイドブックの表紙にも載せている、昭和初期に描かれた「神奈川県観光図録」の鎌倉周辺の拡大図。鶴岡八幡宮や大仏、建長寺などのほか、いまはなき鎌倉海浜ホテルも。明治20(1887)年に結核治療を行うために開かれた日本初の海浜サナトリウムがホテルとなり、大正時代に鎌倉海浜ホテルに改称。終戦直後、失火のために焼失した(神奈川県立歴史博物館蔵)



ミニコラム
精進料理や座禅、写経など 古都を満喫する鎌倉体験
 1日かけてたっぷり堪能したい鎌倉。そこで欠かせないのが古都グルメだ。光明寺では赤い漆塗りの椀に盛られて一品ずつ運ばれていく美しい精進料理がいただける。あじさい寺として有名な明月院の茶寮「月笑軒」では、風光明媚な庭園の景色を眺めながらお抹茶が楽しめる。
 また、円覚寺や建長寺などでは座禅体験、長谷寺や東慶寺などでは写経体験ができる。鎌倉彫会館では鎌倉彫体験教室も。それぞれ有料だけでなく無料のものもあり、優雅な時間を過ごしたあと、名刺で心静かに無心となつて己と向き合うのも歴史ある街ならではの楽しみ方であろう。



散歴歩

写経は、長谷寺は毎日、東慶寺は第2土曜の午前開催。その他、円覚寺や妙本寺でも。鎌倉市HPに詳細が。https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kamakura-kankou/0200experience.html
 ※写真はイメージ



Japan 1 日本遺産① 「いざ、鎌倉」 おすすめコース

〜徒歩

- A** JR鎌倉駅〜若宮大路(段葛、鎌倉彫会館、湯浅物産館、三河屋本店、博古堂)〜鶴岡八幡宮〜鎌倉国史館〜法華堂跡(源頼朝墓・北条義時墓)〜荏柄天神社〜宝戒寺〜滑川〜東勝寺跡〜小町通り〜JR鎌倉駅

- B** JR北鎌倉駅〜円覚寺〜東慶寺〜浄智寺〜明月院〜建長寺〜亀ヶ谷坂切通〜浄光明寺〜英勝寺〜寿福寺〜鎌倉歴史文化交流館〜JR鎌倉駅

日本遺産の構成文化財一覧

- [1] 鶴岡八幡宮/国史跡、国重文(建造物)、県史跡、市指定(建造物、天然記念物) [2] 若宮大路/国史跡、国重文(建造物) [3] 荏柄天神社/国史跡、国重文(建造物) [4] 鎌倉宮 [5] 御霊神社/県指定(無形民俗)、市指定(有形民俗)、市(天然記念物) [6] 小動神社 [7] 銭洗弁財天宇賀福神社 [8] 鎌倉大仏(銅造阿彌陀如来坐像)/国史跡、国宝(彫刻) [9] 建長寺/国史跡、重文(建造物)、国名勝、県指定(建造物)、市指定(天然記念物) [10] 円覚寺/国史跡、国宝(建造物)、県指定(建造物)、市指定(建造物、天然記念物)、国名勝 [11] 寿福寺/国史跡、市指定(建造物、天然記念物) [12] 浄智寺/国史跡 [13] 浄妙寺/国史跡 [14] 杉本寺/県指定(建造物) [15] 宝戒寺 [16] 覺園寺/国史跡、重文(建造物)、県指定(建造物)、県史跡 [17] 浄光明寺/国史跡、重文(建造物)、市指定(建造物)、市史跡 [18] 明王院 [19] 成就院/市文化財(建造物) [20] 英勝寺/重文(建造物) [21] 光明寺/重文(建造物)、県指定(建造物)、市指定(建造物)、市史跡 [22] 明月院/国史跡 [23] 報國寺 [24] 東慶寺 [25] 瑞泉寺/国史跡、国名勝 [26] 本覚寺 [27] 妙本寺 [28] 安国論寺 [29] 檢楽寺/国史跡、重文(建造物) [30] 長谷寺/市文化財(建造物) [31] 大町釈迦堂口遺跡/国史跡 [32] 法華堂跡(源頼朝墓、北条義時墓)/国史跡 [33] 永福寺跡/国史跡 [34] 朝夷奈切通/国史跡 [35] 飯坂坂/国史跡 [36] 大仏切通/国史跡 [37] 名越切通/国史跡 [38] 鎌倉文学館(旧前田家鎌倉別邸)/国登録有形文化財 [39] 旧藤原宮邸/国登録有形文化財、市景観重要建築物等 [40] 旧川喜多別邸(旧和辻邸)/景観重要建築物 [41] 扇湖山荘 [42] 長谷子ども会館(旧諸戸邸)/国登録有形文化財、市景観重要建築物等 [43] 吉屋信子記念館 [44] 石川邸(旧里見 淳邸)/市景観重要建築物等 [45] 吉我邸 [46] 樞亭/国登録有形文化財、市景観重要建築物等 [47] 寸松亭/市景観重要建築物等 [48] 白日常/市景観重要建築物等 [49] 三河屋本店/国登録有形文化財、市景観重要建築物等 [50] 湯浅物産館/市景観重要建築物等 [51] 流籠馬 [52] ぼんぼり(雪洞)彫 [53] 鎌倉名所記 [54] 鎌倉彫/経産省大臣指定伝統的工芸品 [55] 旧神奈川県立近代美術館鎌倉本館/県指定(建造物) [56] 神靈教鎌倉鎌成場(旧山本宗太郎邸)/国登録有形文化財(建造物)

荘や別邸を構えた。やがて、明治・大正・昭和の文豪たちも移り住み、鎌倉は文学の薫る「文化の街」へと変貌する。
 その後、高度成長期には電車でおよそ1時間というアクセスのよさから、東京のベッドタウンとして発展する。しかし便利になった一方で鎌倉は開発の波にさらされ、多くの山林が切り開かれ、姿を消した。
 鶴岡八幡宮の裏山、かつて八幡宮の僧坊が並んでいた御谷の裏山にも宅地開発の計画が持ち上がった。
 自然景観や文化財が失われることを懸念した市民は御谷を守ろうと土

地を買い上げ、開発を防ぐ。鎌倉風致保存会の始まりであり、作家の大佛次郎も参加した日本初のナショナルトラスト運動となった。この「御谷騒動」は「古都保存法」の制定につながるが、鎌倉の景観保存運動の象徴としていまも語り継がれている。
 このように、鎌倉が紡いできた歴史と文化が評価されて日本遺産に認定された。公家の都である奈良や京都とは違った武家の都であった鎌倉は、中世から近現代まで、各時代の様々な要素がまるでモザイク画のように展開する、日本を代表する古都といえる。

鎌倉仏師の技術が生んだ 木彫漆器の伝統工芸

かまくらぼり



福宗寺院を母胎に仏具や調度品として進出し、茶道の世界にも大きな影響を与えた鎌倉彫を代表する香合。いろいろな文様が伝わり、なかでも写真の俱利伽羅や牡丹紋が人気。



鎌倉彫会館の3階にある資料館では室町時代から現代までの名品を60点ほど展示【開館】9:30～17:00（入館16:30まで）、月曜休館【入館料】一般300円

源頼朝が幕府を開き、鎌倉は日本の政治の中心となった。経済も活発となり、大陸との交易船も来港する。当時の宋から様々なものが渡来し、13世紀半ばには禅宗文化も伝わった。

建長寺や円覚寺などの寺院が次々に建立され、各地から大工や仏師たちが集まった。その中には、奈良や京都で活躍した、運慶・快慶を代表とする慶派の仏師たちもいた。

鎌倉仏師は、宋から渡来した堆朱や堆黒と呼ばれる盆や大香合などの木彫漆器に興味を持った。漆が何度も塗り重ねられた上に、精巧な文様が彫られた調度品で、朱色のものが堆朱、黒色のものが堆黒と呼ばれた。宋伝来の意匠を取り入れながら須弥壇などの仏具をつくり、これが鎌倉彫へと発展する。

仏師たちは、唐風の中に日本人の感性を加味し、自然のた。以後、両輪のごとく、三橋、後藤の両家は鎌倉彫の普及と発展に尽力する。

明治22（1889）年、横須賀線が開通すると、鎌倉は上流階級の別荘地として発展し、鎌倉彫の需要も高まる。

なかでも有栖川宮威仁親王は鎌倉彫に深い関心を寄せ、三橋鎌山に制作を依頼。注文品の中にあつた菊花模様や有栖川菊と名付けられ人気を博す。鎌山に「三刀萬象」の掛軸が下賜されたが、いまも三橋家に伝わっているとのことである。

鎌山の子、鎌岳は関東大震災ですべてを失い、実弟のいる京都へと居を移す。表千家の茶道具に半生をかけたが、昭和10（1935）年、鎌倉に戻り、鎌山とともに鎌倉で活動を再開する。

一方、後藤齋宮は時代の流れにあわせ、造仏から鎌倉彫に目を向け、それを継承した子の運久は明治33（1900）

植物をモチーフとした文様を刻んだ木彫漆器の優品をつくり出す。次第に和風になれた工芸品は都の公家たちへの贈答品としても評判となり、室町時代の公家の日記に「鎌倉物」という記述が残る。

その頃、茶の湯が流行し、鎌倉彫で茶人などの茶道具がつくられる。江戸時代になるとさらに茶道が普及し、香合や香盆などの生活用品まで幅広く木彫漆器がつくられ、同時に鎌倉彫という名も使われる。

明治になると、神仏分離の中、寺院は衰退し、仏師たちも仕事を失った。

廃業に追い込まれる仏師が多い中、三橋鎌山と後藤齋宮が、仏像仏具の制作から、日常に使われる工芸品としての鎌倉彫に活路を見出す。

二人は明治10（1877）年に開かれた第1回内国勸業博覧会に作品を出展し、ともに受賞、鎌倉彫の名を広めた。

年、鶴岡八幡宮の三の鳥居横に博古堂を開く。

仕事か休みのときには奈良や京都へ足を運び研究を重ねたという。明治25年頃、運久が奈良や京都の寺院をめぐるスケッチをした『西遊所録』が店に伝わる。廃仏毀釈の流れの中、多くの人が仏像に関心を持たなかったが、奈良の室生寺では「天心とフエノ口サの次に初めて来た関東人」といわれたそうである。

パリの万国博覧会に仏像と鎌倉彫を出品し受賞した運久は積極的に宣伝もし、博古堂の名を知らしめた。

戦後、両家をはじめ、有志たちの努力により、殿堂たる鎌倉彫会館が落成した。宋伝来の文化に端を発し、日本独自の木彫漆器工芸品として発展した鎌倉彫は、800年の時を重ね、いま新たに日本を代表する伝統的工芸品として、世界にもその魅力を伝えようとしている。



鎌倉彫会館の文化教室で伝統工芸に挑戦。大人向けだけでなくシニア教室もある。若宮大路の鳥居を望む眺めのいい4階の教室で指導が受けられる。



鎌倉彫会館1階のカフェ俱利伽羅では、鎌倉彫の器でコーヒーがいただける。かつて鎌倉彫は文箱や手鏡などで利用されたが、その用途も広がっている。



カフェ俱利伽羅ではランチタイムに豆腐を主とした料理や自家製ハンバーグ、スイーツを提供。若宮大路沿いに建ち、散策のひと休みにちょうどいい。同じフロアにはショップも。



鎌倉彫協同組合により建設された鎌倉彫会館。平成28（2016）年にリニューアルされ、1階にはカフェやショップが新設された【住所】鎌倉市小町2-15-13【電話】0467-25-1500 <http://kamakuraborikan.jp/>